



佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2024年9月 - 第28号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ：グレシャム市からの留学生たち②

6月下旬から7月中旬にかけて、姉妹都市である米国オレゴン州グレシャム市から、留学生たちがたくさん来ました。今回は、グレシャム高校からの留学生について紹介します。



グレシャム高校は1915年に開校し、歴史的なダウンタウンにあります。2018年から2021年にかけて大幅なリフォーム工事が行われ、とても立派な校舎になりました。4学年があり、約1600人の生徒が通っています。毎年6月下旬頃から7月上旬頃まで、グレシャム高校で日本語を勉強している生徒が江別市に訪れます。

今年は、アイゼイアさんとエクサビヤさんが6月25日から7月18日まで約3週間江別市に滞在しました。アイゼイアさんは18歳で、6月に高校を卒業したので、今月からグレシャム市にあるマウントフッド・コミュニティカレッジに入学するらしいです。エクサビヤさんは17歳で、今月から高校4年生になります。二人はホームステイをしながら、エクサビヤさんがとわの森三愛高校、アイゼイアさんが江別高校に通い、日本の生活や文化を体験しました。日本の学年はアメリカの学年と違うので、アイゼイアさんは3年生

のクラスに、エクサビヤさんは2年生のクラスに入ることになりました。

一日目に、少しハプニングがありました。6月25日に新千歳空港にバスで二人を迎えに向かっているときに、電話が鳴り、知らないグレシャム市の電話番号でした。電話を出ると、アイゼイアさんでした。「羽田空港に到着しましたが、新千歳空港までの予約がキャンセルされたようです」と冷静に説明してくれました。どうして予約が勝手にキャンセルされたのかわかりませんが、幸いなことに、次の便に乗ることができました。予定の時間より1時間遅れて到着しましたが、無事に北海道に到着して良かったです。

空港でアイゼイアさんとエクサビヤさんと初めて会ったときに、二人の笑顔が印象に残りました。長い旅で疲れているはずにもかかわらず、二人ともニコニコしていて、わくわくしているように見えました。



エクサビヤさん(上)とアイゼイアさん(下)とホストファミリー

エクサビヤさんはホストファミリーと学校の関係者と初めて会ったとき、「エクサビヤです。『ハビ』と呼んでください」と言いました。「Xavier」という名前はスペイン語で「ハビエル」と発音し、「ハビ」が一般的なあだ名だそうです。「エクサビヤ」という発音は日本人にとって長くて発音しづらいので、あだ名で呼んでもらうエクサビヤさんの配慮が素敵だと思いました。私も「ハビ」と呼んでいました。

そして、アイゼイアさんのホストブラザーは、ビデオ通話をしていました。画面を見ると、冬にグresham市に派遣された江別高校の生徒でした。彼女がグresham高校に通っている間に、アイゼイアさんと仲良くなったので、彼を歓迎したかったそうです。アイゼイアさんは友達とビデオ通話で再会して、とても嬉しそうでした。

空港に迎えに行った日の約一週間後に、グresham高校の二人とそれぞれのホストブラザーと一緒に市長表敬訪問と市内見学に行きました。市長表敬訪問のときに、江別市で体験したいことについてたくさん語りました。二人とも買い物が好きで、アニメグッズや日本の靴を買いたいと言っていました。そして、伝統的な家を見たいと言っていました。市長に「日本の食べ物、何が美味しいですか？」と聞かれたときに、アイゼイアさんが「チキン」と答え、市長と都市提携委員会の委員長が爆笑しました。アイゼイアさんは好き嫌いが多く、お肉は鶏肉しか食べられないと言っていました。



市長、エクサビヤさんのホストブラザー、エクサビヤさん、アイゼイアさん、アイゼイアさんのホストブラザー、都市提携委員会の龍田委員長

市長表敬訪問の後に、郷土資料館に行きました。グresham高校の二人は江別市で発掘された土器についてどんどん聞きました。「何のために作られたか、何でできているか、色はどうやって付けたか」など、館長はとても丁寧に答えました。こんなに考古学に興味を持っている高校生を初めて見ました。そ

して、昭和時代の手回し蓄音機があり、館長がレコードを再生してくれました。音質が欠けていましたが、高校生たちが喜び、SNSに投稿するための動画を撮っていました。

郷土資料館の近くにある江別神社にも寄り、宮司はとても温かく歓迎してくれました。お茶、どら焼き、キーホルダー、お箸などのプレゼントを用意してくれて、生徒たちだけではなく、私までいただきました。宮司は若い時にカリフォルニア州で短期留学をしたことがあるので、グresham高校の二人と英語で会話できました。神道と仏教の違いについて興味深い話をしました。そして、神輿のビデオを見せてくれました。二人ともメキシコ系アメリカ人で、エクサビヤさんはメキシコのカトリックの文化にも日本の神輿に似ている慣習があると説明しました。最後に、宮司が生徒たちに日本刀を見せ、全員大喜びでした。やはり外国人は日本刀に憧れていますね！



(上)江別神社 (下)宮司と一緒に日本刀を構える男子たち

江別神社でとても楽しい時間を過ごしましたが、昼食の時間になったので、EBRIにある「KURO〜彩〜」というハンバーグ屋さんに行きました。アイゼイアさんとエクサビヤさんは「ハンバーグって何？ハンバーガーとどう違うの？」と不思議そうに言っていました。ハンバーグは日本で大変人気のある洋食ですが、アメリカには「ハンバーグ」という料理は存

在しません。日本のハンバーグに近い料理は「ソールズベリー・ステーキ」や「ミートローフ」ですが、冷凍食品、給食、病院食として食べることが多く、安っぽい美味しくないイメージがあります。そして、私の家では、お金がない時に、お母さんが円盤状にしたただの牛ひき肉を焼き、それを「ハンバーグ」と呼んでいましたが、本当はバンズと具なしの寂しいハンバーガーでした。日本に来て初めて美味しいハンバーグを食べました。

グレシャム高校の二人にハンバーグを説明し、皆注文しました。エクサビヤさんは大きなハンバーグとカットステーキにしましたが、アイゼイアさんは鶏肉以外、お肉が嫌いなので、鶏肉のひき肉で作られた「チキンバーグ」にしました。そして、この店では、デミグラス、和風、ガーリック、チーズなどの様々なソースから選ぶことができますが、アイゼイアさんは好き嫌いが多いため、「ソースなしで」と注文し、それで店員さんはものすごく驚いた顔をしました。「塩コショウだけでいいです」と私がアイゼイアさんの注文に付け加えました。アイゼイアさんを含め、全員美味しく食べられました。



私も美味しくいただきました！

食べ終わった後、少し買い物をしてから、北海道開拓の村に行きました。北海道の歴史が学べるので、必見だと思います。そして、二人は日本の伝統的な家が見たいと言っていたので、丁度良かったです。エクサビヤさんもアイゼイアさんのホストブラザーも身長が180cm程あるので、低いドアに頭をぶつけそうになりました。(176cmの私もそうでしたが…)そして、とても暑く、虫がたくさん飛んでいました。男子4人は虫を追いかけたり、捕まえたりしようとしていたので、男子が虫と遊ぶのは世界共通だと感じました。一周歩いたら、最後に馬車に乗り、とても楽しかった1日が終わりました。



(上)北海道開拓の村 (下)馬車の中

次にアイゼイアさんとエクサビヤさんと会ったのは、さよならパーティーの日でした。二人は一生懸命日本語で感謝の気持ちをホストファミリーと学校の関係者に伝えました。そして面白いエピソードをたくさん聞きました。例えば、アイゼイアさんはドン・キホーテが大好きで、何回も買い物に行ったそうです。そして、エクサビヤさんは料理が好きなので、ホストファミリーとメキシコ料理を作ったそうです。二人とも将来は、日本に住んでみたいと言っていました。江別市に来て、日本の文化と触れ合い、素敵な思い出をたくさん作り、「また日本に行きたい」という気持ちでグレシャム市に帰るのは、姉妹都市交流の最も有意義なところだと考えます。二人が江別市にまた来るときに、歓迎したいと思います！★



お問合せ先

教育部 生涯学習課 国際交流員 〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434